



楮（こうぞ）の刈り取り作業を行いました

3月19日、岩手県一関市東山支所、和紙生産者が来町し、北成田地区で栽培された楮の刈り取り作業を行いました。

楮は、岩手県一関市東山町で800年以上受け継がれる手漉き和紙「東山和紙」の原料です。平成23年に一関市から町へ寄贈され、現在は、北成田しあわせ会が管理を行っています。



南成田の大桜で観桜会

4月5日、町の天然記念物「南成田の大桜」で、初めての観桜会が開催されました。「南成田大桜を守る会」と「南なりた村おこしの会」が共同で企画したもので、甘酒や南成田産の小麦粉を使った手作りドーナツなどが振る舞われ、地域の方々が桜を見ながら、その保全について語り合いました。

なお、橋本翔さん（三春中学校2年）が、この桜の根元にある空洞に着目し、記念撮影やイベントの開催による観光誘客を提案し、2月に福島民報社の「小中学生まちづくり大賞」アイデア部門で金賞を受賞しました。桜の保護とともにその活用が期待されます。



町長短信

これだけは

新型コロナウイルス感染予防対策のため、相当数の行事取りやめ・自粛がありましたが、三春町でも卒業式や滝桜観光に大きな影響がありました。

卒業式では、感染予防上の配慮から在校生の出席はかなわず来賓も限定するなど、何を割愛するのか現場での先生方や関係者の葛藤とご苦勞は相当なものだったと思います。

そのような中、式は静かに挙行されました。

小学校では、休校により事前の練習もままならない中で卒業式本番を迎えてしまいました。

中学校では、いつもより座席間隔をかなり広くとった体育館での卒業式となりました。

田村高校では、歌は歌えずCDを流すのみとなってしまいました。

ただ、いずれの卒業式でも恩師や保護者に向かって、「ありがとうございました。」の大きな声とともに深々と一礼する姿がありました。

様々な制約があるなか、恩師や保護者への感謝の気持ちだけは自分の声で精一杯伝えたかったのでしょうか。

その気持ちは、参列した私どもにも充分伝わりました。

一方、今年の滝桜は4月1日に開花いたしました。例年にない早い開花です。

感染拡大を助長する三つの「密」を避けるため、売店やシャトルバス運行は取りやめるなど、これも制約があるなか観桜シーズンを迎えましたが、4月7日の緊急事態宣言を受け、今年の滝桜観光は全面的に中止とさせていただきます。

落ち着いた情勢ではありましたが、滝桜は悠々と枝を広げいつもと変わらない凜とした姿を見せてくれました。

町内には、滝桜以外にも皆さんお気に入りの桜が点在していますが、来年は、何の屈託もなく桜を見られることを切に願っております。

今回の新型コロナウイルス感染症対策に際して改めて感じたのは、日常を支える物流など様々な体制がこんなにも脆弱な基盤の上に成り立っていたということです。

かつて、効率化をひたすら目指し外注化・外部化を進めて来ましたが、はからずも弱点を露呈してしまいました。今後、程度の差こそあるかと思いますが、自給・自立体制の強化は避けられないと思うと同時に、我が国ファースト、我がまちファーストそして自分ファーストが極端にならないことを祈るばかりです。

大変な時だからこそ、お互いを思いやり信頼し助け合う精神だけは失いたくないものです。